

令和6年度学校経営計画書

岡山県立早島支援学校

○本校のミッション(使命、存在意義)

県下唯一の病弱部門に肢体不自由部門を併設した特別支援学校として、隣接する南岡山医療センターとの連携をもとに、多様な教育的ニーズのある児童生徒に対して幅広い教育活動を展開し、自立と社会参加の促進を図り、共生社会の実現を目指す。

○内外の環境分析

(国・県・地域等) ・学校所在地の早島町は、県内で一番コンパクトな自治体であると同時に、県下最大の人口密度であることから、関係諸機関との連携をシンプルに行うことができることに加え、人的資源も豊富にあると考える。 ・隣接する南岡山医療センターと綿密に連携することができ、児童生徒の緊急対応時や非常変災時において医療による安心・安全な環境の維持が可能である。 ・これからの時代に必要な資質・能力の育成に向け、学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等の指導内容、学習評価の具体化が求められている。 ・社会に開かれた教育課程の実現に向け、さらなる地域との連携や実社会からの学びを通したキャリア教育の充実が求められている。 ・GIGAスクール構想をさらに充実させ、教育DXの推進が求められている。 ・将来の地域生活を想定し、スポーツや文化芸術活動について地域資源を活用した体験を積み重ねていくことが求められている。 ・近隣の学校や児童生徒が居住する地域の学校と連携した交流及び共同学習、及び地域のニーズに貢献する学習活動のさらなる充実が求められている。 ・「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の施行を受け、医療的ケア児の可能性を最大限に発揮させ、将来の自立と社会参加に必要な力を養うための個々のニーズに応じた教育が求められているとともに、保護者の負担軽減のための体制整備の充実が求められている。 ・高度な医療を要する状態にある児童生徒の学校生活をより安心安全なものにし、学びを保障していくため、学校と家庭、医療、福祉等が信頼関係の上に綿密な連携が必要である。 ・就学前から卒業後までの生活や進路について、継続的で一貫した指導・支援のために関係機関との有機的なネットワークの形成やその活用が求められている。 ・教育公務員としての責務と自覚を一層深め、不祥事の根絶を図る取組の推進が求められている。 (学 校) ・病弱教育、肢体不自由教育の地域へのセンター的機能として、教育相談や授業・専門性に関わる支援や情報発信が求められている。また県内最大の医療的ケア児在籍校として、医療的ケアに関してもセンター的機能が求められている。 ・人工呼吸器の使用等、高度な医療を必要とする児童生徒が増加・多様化する中で、安心安全な学校生活を送ることができるように効率的、組織的な医療的ケアの対応を目指している。 ・体調不良や入院等で欠席が多くなりがちな児童生徒に対する学習保障が求められている。 ・就学前から高等部卒業後までの系統的で一貫性のある指導や支援を行っていくことができるように、個別の教育支援計画を作成・活用して、校内及び関係機関との連携を図っている。 ・児童生徒の実態からの課題に対応した、多様で柔軟な教育課程の編成や各教科と自立活動の関連についての明確な位置付けが求められている。 ・各教科等の目標の明確化とその評価の妥当性を検討しながら、日々授業改善を行っている。 ・HPやSNSを活用した学校の様子 of 積極的な発信が求められている。 ・教職員は授業づくりや学校課題の解決等に向け、常に前向きに業務に取り組んでおり、多様な専門性を有する教職員が日常的に教え合ったり学び合ったりする中で自己の専門性、授業力を高めようと日々努力をしている。 ・働き方改革による業務の精選や効率化によるゆとりの創造、人生を豊かに過ごすための時間管理等が求められている。 ・育児や介護制度が拡充する中、多様な勤務形態で働く教職員の増加に伴い、情報共有や役割分担等の連携をより一層適切に行うことが必要となっている。
--

○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（めざす学校像）

～ともに学び、ともに成長を喜び合える学校～

- 1 児童生徒が、思いや考えを伝え、生き生きと学ぶ学校【特別支援教育の充実】
- 2 授業力向上に努め、家庭や地域社会に信頼される学校【専門性の向上】
- 3 医療、福祉等と連携することで、児童生徒の学びを支える学校【支援体制の構築】

○具体的な学校経営目標・計画

1 子どもの豊かな学びを支える専門性・授業力の向上

(1) 個々のニーズや指導の一貫性・系統性を考慮した教育の推進

教育 DX を推進するとともに、キャリア教育の視点を踏まえながら多様な実態の児童生徒全ての学びを保障していくことができる教育課程の編成や授業づくりについて研究を深める。

(2) 自立活動及び各教科の指導の一層の充実

個別の指導計画の活用をさらに進め、自立活動と各教科との関連について整理するとともに、専門家とも連携することで、指導の一層の充実を図る。また学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別評価による学習評価の妥当性の向上に努める。

2 子どもの安心安全を支える専門性・システムの充実

(1) 安心安全な医療的ケアの実施

医療的ケア校内委員会を中核として校内支援体制の充実をはかるとともに、主治医や学校医、訪問看護ステーション、相談支援機関等の関係機関との連携を深める。

(2) 健康な学校生活の確保

アレルギーや感染症等について、マニュアルの見直し等により確実な対応に努める。

(3) 人権を尊重した教育の徹底

教職員が高い人権意識を持つとともに、いじめや虐待について早期発見や予防等、関係機関と連携しながら組織的な対応に努める。

(4) 防災体制の充実

学校防災マニュアルの見直しや、隣接する病院や行政機関との連携等により、防災体制の充実に努める。

3 地域とともにある開かれた学校づくりとセンター的機能の充実

(1) 地域とともにある学校づくり

学校運営協議会を基盤に、学校・家庭・行政・福祉・地域等が協議・連携を深めることで、地域資源を生かした学習や地域のニーズに応える学習の充実に努める。

(2) 交流及び共同学習の充実

共生社会の実現に向けて、地域の学校との交流や居住地校交流のさらなる充実をはかる。

(3) 地域に向けた発信力の強化

ホームページやSNS等を活用し、学校の様子をタイムリーに保護者や地域社会に伝えていくことで学校教育への理解促進と啓発に努める。

(4) センター的機能の充実

病弱教育や肢体不自由教育に関するだけでなく、県内最大の医療的ケア児在籍校として医療的ケアに関することについても、地域のニーズに応じたセンター的機能を発揮する。

4 働きがいのある職場づくりの推進

(1) 働き方改革の推進

学校運営組織の活性化を進めるとともに、教育 DX を推進して業務の効率化をはかり、ワークライフバランスのとれた働き方を目指す。

(2) 互いに高め合い、支え合う教師集団

教員一人一人が自己の課題と役割を意識しながら、多様な研修スタイルによる実践的な研修の場を設け、専門性の向上を目指す。